

毎月皆様に情報を提供してあります「広報かみのかわ」が、おかげさまで今月号をもって500号になりました。

この広報紙の創刊号は、昭和31年11月に発行。当時は、毎月発行ではなく年1回。スタイルも冊子形式ではなく、半紙と同じ大きさ（B4版）で両面刷りの新聞スタイルでした。

こんな形で始まった町の広報紙も7号（昭和37年6月発行）から冊子形式となり、8号（昭和37年9月発行）からは、何気ない町の話の写真で飾られた表紙をもつ今のスタイルへ整ってきました。

しかし、現在のように情報のスピードが求められる社会に合わせ、広報紙が毎月1回発行するようになったのは、昭和43年5月のことです。このころの上三川町は、大きく変わるつとしていた時代でもありました。

昭和43年には、日産自動車栃木工場の一部が起工され、それまで農業の町だった上三川町に工業が加わり、町の人口増加、経済成長等大きく様変わりしていきました。

現在は1日発行ですが、昭和50年頃までは10日、15日、20日発行という時期もありました。

平成5年4月号からは、現在の大

おかげさまで創刊500号

きさA4版になりました。この年の3月号と比べるとページ数は同じ16ページ、つまり紙が大きくなると同時に文字も大きくなったのです。

「広報かみのかわ」が、初めて表紙にカラー写真を掲載したのは、昭和46年1月号です。この時は、まだ1年に1回のみカラーで発行されていました。平成8年の4月号から毎月表紙がカラーに変わりました。

広報紙の創刊500号はもちろん通過点です。「広報かみのかわ」が町民の皆様に、親しみをもつてご愛読いただけるよう、さらに充実した紙面づくりに努力していきます。また、「このようにしたほうがいい」というご意見・アイデア等がありましたら、ぜひお聞かせください。



下右から創刊号、現在の形になった第7号、表紙にカラー印刷が採用された昭和46年1月号、上右から現在の大きさ（A4）になった平成5年4月号毎月カラー表紙になった平成8年4月号、現在発行されている形（第499号）

かみのかわ 四季の野鳥

上三川町は、肥沃な田園地帯を大小の河川が流れ、また、平地林と屋敷林とが点在するなど豊かな自然に恵まれ、四季を通じて多くの野鳥を見ることが出来ます。今月から1年間、本町で見られる野鳥を写真で紹介していきます。

① シラサギ（白鷺） コウノトリ目サギ科

初回は、町の鳥シラサギです。皆さんも、緑の田に群れる真白いシラサギを見たことがあると思います。シラサギはダイサギ、チュウサギ、コサギなど白いサギの総称で、このうちダイサギとコサギは留鳥ですが、チュウサギは4月頃フィリピンなど南方から渡ってきます。また、チュウサギは準絶滅危惧種に指定されています。

コサギはチュウサギより明らかに小さく、後頭部に2本の飾り毛があって識別しやすいのですが、ダイサギとチュウサギとは見分けにくい鳥です。ダイサギのほうが比較的くちばしが長く、繁殖期に目先の部分が青っぽいのがダイサギ、黄緑色に見えるのがチュウサギです。

これから6月頃がサギたちの繁殖期で、シラサギ以外にアオサギや夜行性のゴイサギなどもいっしょになって、雑木林や竹林に集団で営巣します。サギは一夫一妻で2～5個の卵を産み24日ほどで孵化します。田植えが終わった田んぼにはカエルや小魚が棲みつき、子育て中のサギたちの格好の餌場になります。親は孵化したヒナに胃の中の魚などを吐き戻して与え、孵化後1～2か月ほどで巣立ちします。



上からダイサギ、チュウサギ、コサギ